

星花きらめく



平成 30 年 11 月 22 日 (木)
長野市立裾花中学校
NO. 5

“夢をあきらめない！”～11/8 人権教育講演会～

11月8日(木)に、アスリートの青木辰子さんをお招きし、人権教育講演会を行いました。

青木さんは、中学校時代は器械体操で膝を痛め、片足麻痺になってしまいます。その後、立位のアルペンスキーを始め、今度はトレーニング中の怪我で車いす生活になり、座位のスキー競技に転向します。そして、逆境を乗り越え、パラリンピックに5回出場、回転競技でメダルを2つ獲得されました。

ご講演では、「夢には、いろいろな考え方がある。『夢をあきらめない』が一生のテーマ」と力強く語っていました。

また、「障がいを負ったことで、他の誰にも経験できないことを経験することができ、パラリンピックの舞台にも立てた。」と明るく語りかけてくださいました。



裾中生が輝いた！～アモーレフェスタ～

11月4日(日)に、安茂里住民自治協議会主催のアモーレフェスタに、多くの生徒が参加しました。演劇部、合唱部、吹奏楽部は素晴らしい発表をしてくれました。また、2年生の有志の15名の皆さんが、案内役や、販売コーナーの手伝い等をボランティア活動をしました。

当日は、天気もよく、大勢の方々が訪れる中、それぞれの裾中生が活躍し、地域との交流ができました。役員の方からは、感謝の言葉をいただきました。



<合唱部の発表>

信濃教育会全県研究大会 (理科) 11/15 (木) 研究日③

1年6組 理科 「考えよう！身のまわりの災害」 A先生

○身近な地域の地質や災害の歴史と関連付けて、起こりそうな災害を予測し、その理由を考えよう。

裾花中付近の立体地形図に、起こりそうな災害とその理由を一人一人がカードに書き、『旗』のようにして立てました。グループや学級全体の話し合いでは、「液状化現象」「土砂災害」「内陸型地震」などが出されました。70名ぐらいの先生に参観される中、生徒達は自分の意見を出し、学び合う授業ができました。



ちがい ～世界の有名人より～ (11/8 校長講話より)

これから、何人かの人物の、子どもの頃のことを紹介します。

A：彼は4歳まで話さなかった。勉強も苦手で友だちともなじまず、スポーツにも無関心、暗記ができない。質問してもすぐ答えず、答えても口の中で何度も繰り返している。大学受験にも失敗

B：小学校に入学するも、先生との相性が合わず中退。小学校当時、算数の授業中には「 $1 + 1 = 2$ 」と教えられても理解できず、「1個の粘土と1個の粘土を合わせたら、大きな1個の粘土なのになぜ2個なの？」と質問したり、国語の授業中にも「A（エー）はどうしてP（ピー）と呼ばないの？」と質問したりするといった具合で、授業中にはことある毎に「なぜ？」を連発していた。

C：おとなしい性格で、絵を描くことが大好きだった。最初に興味をもったのはトラック、次に妖怪、そして、魚。魚に夢中になりすぎて、学校の成績が下がってしまった。

D：小さい頃は文字を読むことができなかった。そして、一生懸命読んでも、読み終わったときにはほとんど記憶に残っていなかった。学生時代はスポーツに熱中するが挫折する。

今、話を聞いて、「ちょっと個性的な子どもだな」と感じた人たちが多いのではないのでしょうか。皆さんの教室に、このような友だちがいたらどのように対応しますか。

子どもの頃から字が読めないことを隠し続けてきたDさん。何回か転校を繰り返していたが、その都度、字が読めないことを隠してきた。しかし授業でそのことがばれてしまう。子どもの頃の辛い体験が、大人になっても忘れることができない。しかし、そんな彼にも心から信頼できる人がいた。Dさんにとって一番の理解者であり友だちであるのは家族であった。Dさんは、その後、演劇に関心をもつようになった。1986年の「トップガン」の世界的大ヒットでトップスターの仲間入りを果たした。そう、Dさんとは、トム・クルーズさんです。トム・クルーズさんは、その後、文字を読めるようになるのですが、それまでの間は、台詞を覚えるに当たり、お母さんやスタッフに読んでもらってそれを暗記して撮影に臨んだそうです。

この話は、先日講演してくださった青木辰子さんのお話に通じるところがあります。

「車椅子の生活をしている私には、お店に行ったとき高いところにある商品を取れないことがあります。でも、これは障がいではないんです。なぜなら、周りにいる人に頼めば取ってもらうことができるから。」周囲にいる人からどのようなサポート受けるか、それによってできないことはできることに変わり、障がいではなくなっていくということでした。人はそれぞれに違います。私も、自分の中に得意とすることと苦手とすることがあります。例えば、私は保健体育の教員を長く務め、高校から大学、そして、教員になってからもしばらく、ハンドボールという競技を続けていましたが、そんな私が思うのは、自分には球技のセンスはあまり無いということです。では、そんな私が、なぜ、ハンドボールを続けることができたのか。それは、ハンドボールという競技の中に自分にもできそうな役割（ポジション）を見つけ、先生が指導し、仲間が支えてくれたからです。

最後に、A～Cの人物についても見ていきましょう。Aは、アルバート・アインシュタインです。Bは、トーマス・エジソンです。Cは、さかなクンです。違いは、非難されたり否定されたりすべきものではありません。一人ひとりの違いが尊重され、必要なことを互いに補い合っていけば、学校が、社会が、もっともっと住みよい場所になっていくはずですよ。

青木辰子さんは、「アメリカやカナダでは、車椅子で移動していると、『押しましようか』と声を掛けてくれるけど、日本では坂道を一生懸命上っていても、誰も声を掛けてこない。『困っていることありませんか。何かお手伝いしましょうか。』これが自然に聞かれるようになるといい。」

とおっしゃっていましたが、その第一歩を学校で始めましょう。違いを笑ったり、からかったりするのではなく、その人の立場になって考え、手をさしのべられるようになることが大切だと思うのですが、どうでしょうか。

(*紙面の都合上、一部要約して掲載しています)

セクハラや生徒に関わる相談窓口は

小山きよみ (養護教諭)

森川 美弥 (養護助教諭)

黒沢 浩二 (教務主任) です

長野市立 裾花中学校

文責 山口 近 (教頭)

電話：026(226)1804

FAX：026(226)1881

電子メール susobanajh@nagano-ngn.ed.jp

HP：<http://www.nagano-ngn.ed.jp/susobana>

